

首都圏および近畿圏等在住者（ネットユーザー）の観光の動向 および平城遷都 1300 年祭への来訪ニーズに関する調査 Part 1

2010年1月1日から12月31日まで行われる「平城遷都1300年祭」まで3か月弱となり、地元奈良では開催の準備が進んでいる。また、先月の23日には「100日前の集い・セレモニー」が盛大に行われ、祝賀ムードも高まりつつある。

当センターでは、平城遷都1300年祭の開催を間近にしたこの時期に、奈良への宿泊旅行のニーズや平城遷都1300年祭の訪問動向等について把握するべく、首都圏在住者および奈良県を除く近畿圏と三重県在住者を対象にインターネットを利用して調査を行った。なお調査結果は、今月号で「首都圏および近畿圏等在住者の観光の動向および奈良の宿泊観光ニーズ等」を、11月号で「首都圏および近畿圏等在住者の平城遷都1300年祭への来訪ニーズ等」を掲載する。

1 調査の概要

本稿は、「首都圏（東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県）」在住者および「奈良県を除く近畿2府3県（滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、和歌山県）と三重県」（以下、「近畿圏等」という）在住者に対してインターネットを利用してアンケート調査を実施し、その結果をまとめたものである。

<調査の概要>

- (1) 調査実施時期
 - 2009年9月8日（火）～9日（水）
- (2) 調査対象者
 - 20歳以上の首都圏および近畿圏等在住者
- (3) 調査方法
 - 「Yahoo! リサーチモニター」に登録している人に対し、アンケートが掲載されているURLを添付したEメールを送付し、インターネット上で回答してもらい集計した。
- (4) 回答者の概要
 - 依頼対象者数：2,956人（割合は首都圏、近畿圏等ごとに人口構成により按分）
 - 回収サンプル数：1,096（首都圏：555、近畿圏等：541）
 - 男女別：男性512人、女性584人
 - 在住地別年代別内訳：以下の表の通り
- (5) その他
 - 本稿における「観光」には「修学旅行」を含め、「商用出張」を除いている。また、

すべての回答項目において「不明」の回答はない。

○本文中、「首：○%」は首都圏の割合が○%、「近：△%」は近畿圏等の割合が△%であることを表している。

○本文中の図表において資料出所の記載がないものは、本アンケート調査の結果である。

○年代別にみた回答者の割合は実際の年代別構成比とは異なっている。そのため本調査ではウエイト付けを行い、年代別の回答者割合を人口構成比（平成17年国勢調査）に合わせ、その数値で分析している。

○ウエイト付けにより60歳以上のサンプル数が大きく変化するため、年代による分析の際、60歳以上のコメントは差し控える。

■在住地別年代別回答者割合

◇首都圏（ウエイト付け前）

	全体	20代	30代	40代	50代	60歳以上
東京都	186	39	56	54	26	11
神奈川県	157	30	50	43	19	15
千葉県	94	11	41	27	10	5
埼玉県	118	16	44	32	16	10
首都圏計	555	96	191	156	71	41
	100.0	17.3	34.4	28.1	12.8	7.4

◇首都圏（ウエイト付け後）

	全体	20代	30代	40代	50代	60歳以上
東京都	186	33	38	29	30	55
神奈川県	157	26	33	25	27	46
千葉県	94	15	18	14	18	29
埼玉県	118	19	23	18	23	35
首都圏計	555	93	113	87	98	165
	100.0	16.7	20.3	15.6	17.7	29.6

◇近畿圏等（ウエイト付け前）

	全体	20代	30代	40代	50代	60歳以上
大阪府	224	43	75	58	36	12
京都府	55	10	24	13	5	3
兵庫県	145	25	52	42	16	10
滋賀県	32	4	18	6	3	1
和歌山県	26	4	7	9	5	1
三重県	59	13	23	14	7	2
近畿圏等計	541	99	199	142	72	29
	100.0	18.3	36.8	26.2	13.3	5.4

◇近畿圏等（ウエイト付け後）

	全体	20代	30代	40代	50代	60歳以上
大阪府	224	35	44	33	40	72
京都府	55	9	10	8	10	18
兵庫県	145	21	26	22	27	48
滋賀県	32	5	6	5	6	10
和歌山県	26	3	4	4	5	10
三重県	59	8	10	9	11	21
近畿圏等計	541	83	100	84	99	179
	100.0	15.3	18.4	14.9	18.3	33.2

2 最近の国内宿泊旅行のニーズ等について

1. 宿泊施設決定の際に重視する項目

宿泊を伴う国内旅行をする場合、宿泊施設を決定する際に重視する項目について複数回答で尋ねた。

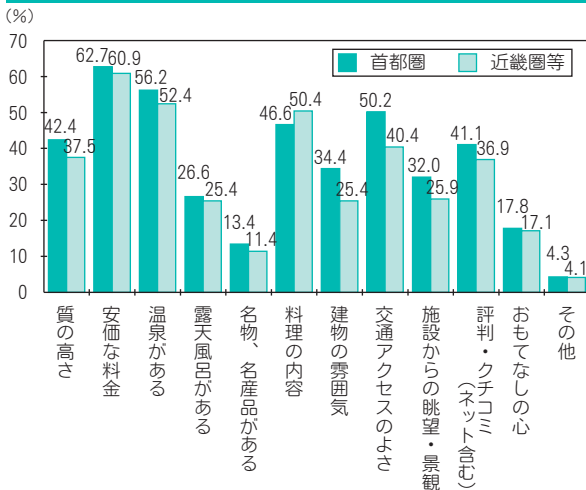
上位の項目に首都圏と近畿圏等での大きな違いはなく、首都圏では「安価な料金（62.7%）」が最も多く、以下は「温泉がある（56.2%）」、「交通アクセスのよさ（50.2%）」、「料理の内容（46.6%）」と続いている。

近畿圏等では「安価な料金（60.9%）」が最も多く、以下は「温泉がある（52.4%）」、「料理の内容（50.4%）」、「交通アクセスのよさ（40.4%）」の順となった。

また、「質の高さ」は首都圏（42.4%）、近畿圏等（37.5%）とも5位に位置しているが、いずれも「安価な料金」に比べ割合は小さく、どちらかというとなりより安い料金を希望する回答者が多いという結果となった。

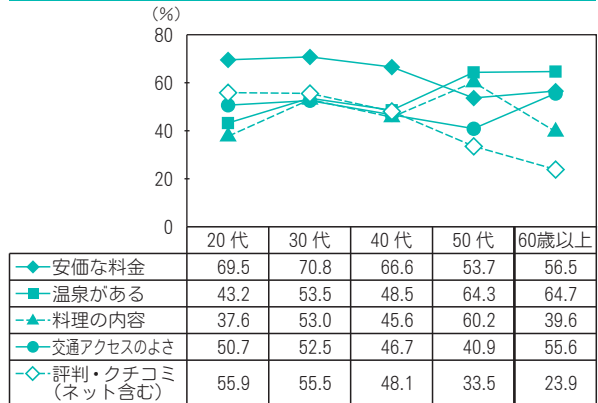
また、近年注目されている「おもてなしの心」（首：17.8%、近：17.1%）や「名物・名産品がある」（首：13.4%、近：11.4%）などは首都圏、近畿圏等とも少数意見で、宿泊施設を決定する際の重要度としては低いものと思われる。

宿泊施設決定の際に重視する項目（複数回答）

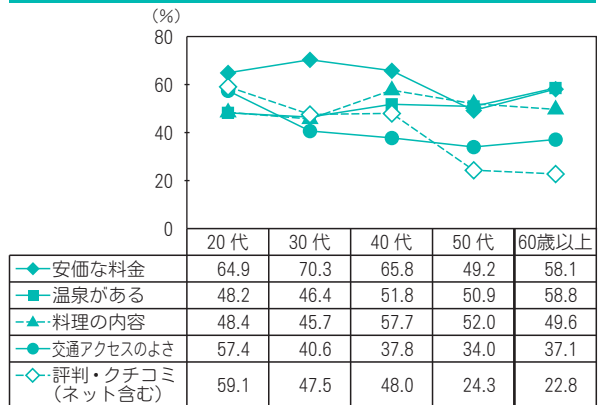


以下の折れ線グラフは、宿泊施設を決定する際に重視する項目の上位5項目を年代別にみたものである。

年代別にみた重視する項目（首都圏、上位項目）



年代別にみた重視する項目（近畿圏等、上位項目）



「安価な料金」の割合が最も多いのが首都圏、近畿圏等とも30代であり、一方、50代、60歳以上の割合はやや低かった。

「温泉がある」では、50代、60歳以上の割合が高い傾向がある。

「料理の内容」では、特徴的な事象はみられなかった。

「交通アクセスのよさ」では、近畿圏等の40代、50代、60歳以上で割合が低くなっている。

「評判・クチコミ（ネット含む）」では、首都圏の60歳以上と近畿圏等の50代、60歳以上で低くなっている。

特集

2. 妥当と思う総予算金額（ひとり1泊あたり）

宿泊を伴う国内旅行をする場合、「妥当と思うひとり1泊あたりの総予算金額（交通費、宿泊費、食事代、土産代等）」を尋ねた。

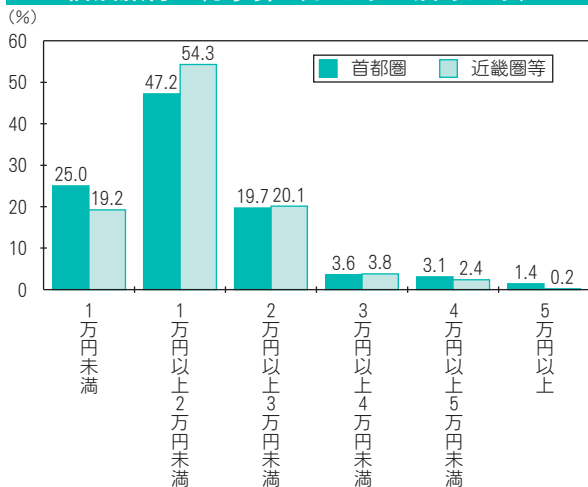
※回答者がイメージしている宿泊日数に関係なく、「ひとり1泊あたりの総予算」として尋ねている。

最も多かったのが首都圏、近畿圏等とも「1万円以上2万円未満」（首：47.2%、近：54.3%）で半数前後を占めている。次いで「1万円未満（首：25.0%、近：19.2%）」、「2万円以上3万円未満（首：19.7%、近20.1%）」と続き、これら3項目で全体の90%以上を占めている。

一方、「3万円以上4万円未満（首：3.6%、近：3.8%）」、「4万円以上5万円未満（首：3.1%、近：2.4%）」、「5万円以上（首：1.4%、近：0.2%）」とする回答は少数だった。

以上のことから、首都圏、近畿圏等の在住者は、国内宿泊旅行におけるひとり1泊あたりの総予算は、「1万円以上2万円未満」の幅を中心にして、その前後が一般的な予算と考えていると思われる。

宿泊旅行の総予算（ひとり1泊あたり）



3. 過去1年間の国内宿泊旅行の有無

過去1年間（2008年9月から2009年8月まで）

に宿泊を伴う国内旅行をしたかどうかについて尋ねた。

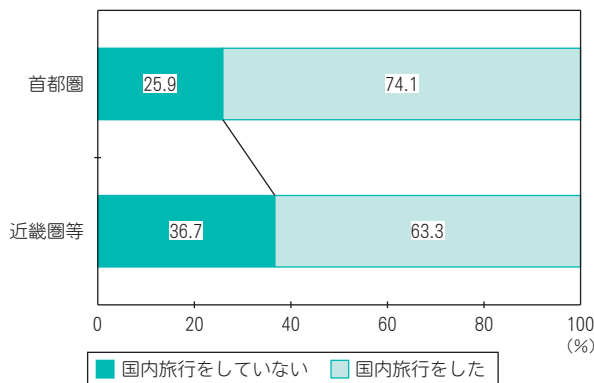
※1年間に複数の旅行をした場合は、宿泊日数や出費が最も多かったもの1つを回答。

※1年間に海外旅行のみをした人は「国内宿泊旅行をしていない」に含まれる。

※一般的に修学旅行は高校生以下が対象となる。本調査では回答者の年齢を20歳以上としているため、本設問での対象となる旅行が修学旅行である可能性は低いと考えられる（以下、同じ）。

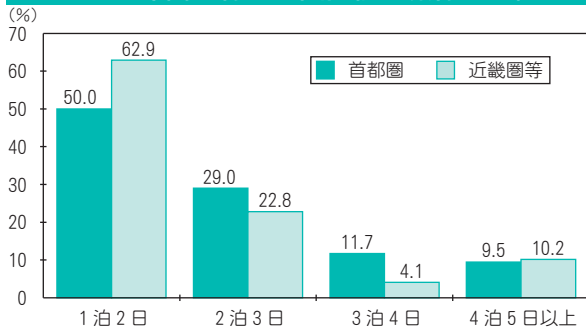
国内宿泊旅行をした人の割合は首都圏が74.1%、近畿圏等が63.3%で、近畿圏等に比して首都圏が10ポイント程度多いが、いずれも6割以上の人が国内旅行を行っている。一方、国内宿泊旅行をしなかった人は首都圏が25.9%、近畿圏等が36.7%だった。これを年齢別にみた場合も、大きな差異は見られなかった。

国内旅行の有無（過去1年間）



次に、国内宿泊旅行を行程日数別に分けると、「1泊2日」が最も多く、国内旅行をしたと回答した人の50.0%（首都圏）、62.9%（近畿圏等）を占めた。以下、「2泊3日」（首：29.0%、近：22.8%）、「3泊4日」（首：11.7%、近：4.1%）となっている。首都圏、近畿圏等の比較では、近畿圏等で1泊2日が多く、首都圏で2泊3日、3泊4日の行程が多くなっている。

過去1年間に行った国内宿泊旅行の日程



4. 過去1年間の国内宿泊旅行先（都道府県）

上記質問で国内宿泊旅行をしたと回答した人に対し、旅行先（都道府県）を尋ねた。

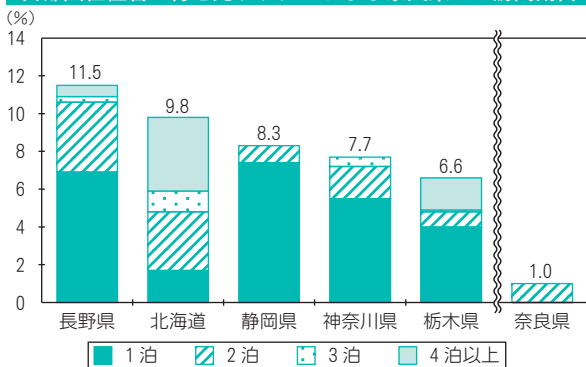
※行程が複数の都道府県にまたがった場合は、回答者が重視する主なものを1つ回答。
 ※旅行の行き先を尋ねているため、宿泊先とは必ずしも一致しない。

(1) 首都圏

首都圏在住者では、1位が長野県の11.5%で首都圏回答者の1割強を占めている。2位以下は北海道(9.8%)、静岡県(8.3%)、神奈川県(7.7%)、栃木県(6.6%)の順となった。なお、行き先が奈良県という人は1.0%だった。

次にトップ5を行程別にみると、長野県、神奈川県は1泊2日および2泊3日の行程が中心、静岡県は1泊2日の行程が中心、北海道は2泊3日以上と比較的長期の行程が中心で、栃木県は短期と長期の行程が混在している。

首都圏在住者の行き先トップ5および奈良県への訪問割合

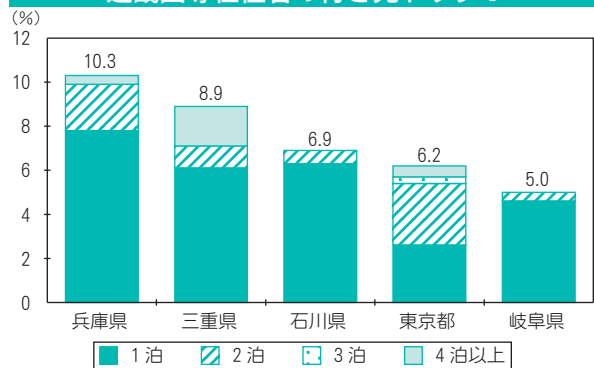


(2) 近畿圏等

近畿圏等の在住者では、1位が兵庫県の10.3%で回答者の約1割が訪問している。2位以下は三重県(8.9%)、石川県(6.9%)、東京都(6.2%)、岐阜県(5.0%)の順となった。上位5位の中に地元である近畿圏等が2か所含まれるほか、北陸、中部地方や東京都も多く、旅行範囲は広範にわたっている。

次にトップ5を行程別にみると、兵庫県、石川県、岐阜県へは1泊2日、東京都へは1泊2日および2泊3日の行程が中心で、三重県は短期と長期の行程が混在している。

近畿圏等在住者の行き先トップ5



5. 過去1年間の国内宿泊旅行訪問月

上記質問で国内宿泊旅行をしたと回答した人に対し、訪問月を尋ねた。

※行程が2か月に、またがる場合は「滞在時間が長い月」を回答。

首都圏、近畿圏等の傾向は概ね同じで、夏休みにあたる「7月」、「8月」と「5月」が多い。特に「8月」が図抜けて多く首都圏で2割強、近畿圏等で3割弱を占めている。

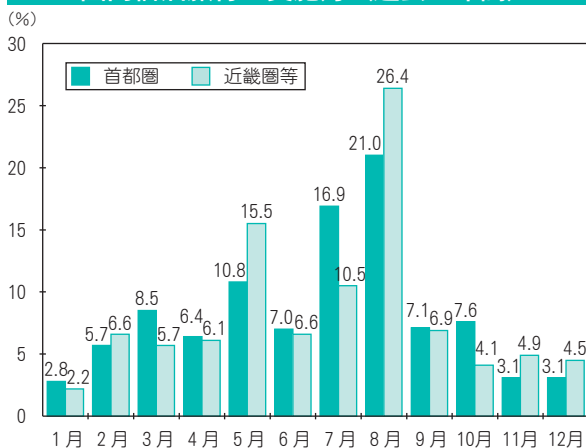
一方で、少ない月は首都圏では「1月」(2.8%)、「11月」、「12月」(いずれも3.1%)の順、近畿圏等では「1月」(2.2%)、「10月」(4.1%)、「12月」(4.5%)、「11月」(4.9%)の順だった。

少ない時期は冬場が中心だが、休暇が取りにくく

特集

いことや天候などが関係してか、上記以外では「4月」、「6月」、「9月」も少なかった。

国内宿泊旅行の実施月（過去1年間）

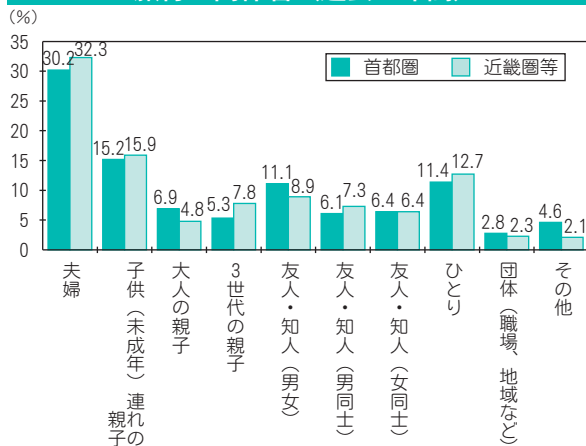


6. 過去1年間の国内旅行の同伴者

上記質問で国内宿泊旅行をしたと回答した人に対し、同伴者を尋ねた。

首都圏、近畿圏等とも「夫婦」（首：30.2%、近：32.3%）が最も多く、以下、「子供（未成年）連れの親子」（首：15.2%、近：15.9%）、「ひとり」（首：11.4%、近：12.7%）、「友人・知人（男女）」（首：11.1%、近：8.9%）と続いている。

旅行の同伴者（過去1年間）



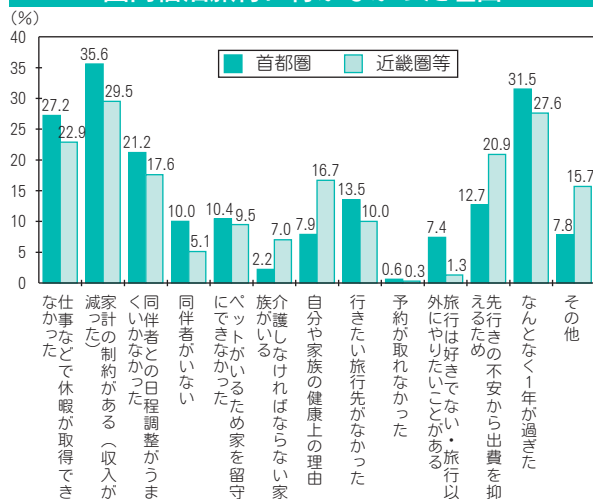
一方で、「大人の親子」、「3世代の親子」、「友人・知人（男同士）」、「友人・知人（女同士）」や「団体（職場、地域など）」は少数だった。

7. 過去1年間に国内宿泊旅行をしなかった理由

上記質問で国内宿泊旅行をしなかったと回答した人に対し、その理由を尋ねた。

首都圏と近畿圏等で概ね同様の傾向が表れており、首都圏で最も多かったのが、「家計の制約がある（収入が減った）」の35.6%、以下、「なんとなく1年が過ぎた」（31.5%）、「仕事などで休暇が取得できなかった」（27.2%）、「同伴者との日程調整がうまくいかなかった」（21.2%）と続いている。少数意見としては、少ない方から「予約がとれなかった」（0.6%）、「介護しなければな

国内宿泊旅行に行かなかった理由



らない家族がいる」（2.2%）、「旅行は好きではない・旅行以外にやりたいことがある」（7.4%）、「自分や家族の健康上の理由」（7.9%）の順となった。

近畿圏等で最も多かったのが、「家計の制約がある（収入が減った）」の29.5%、以下、「なんとなく1年が過ぎた」（27.6%）、「仕事などで休暇が取得できなかった」（22.9%）、「同伴者との日程調整がうまくいかなかった」（17.6%）と続いている。

少数意見としては、少ない方から「予約がとれなかった」（0.3%）、「旅行は好きではない」（1.3%）、「同伴者がいない」（5.1%）」の順となった。

3 奈良に関して

以下の項目に関しては、奈良に関連する項目について尋ねたものである。

1. 奈良に宿泊すると仮定した場合に希望する宿泊施設

仮に奈良へ宿泊観光旅行をずとした場合、どのような宿泊施設を希望するかを尋ねた。

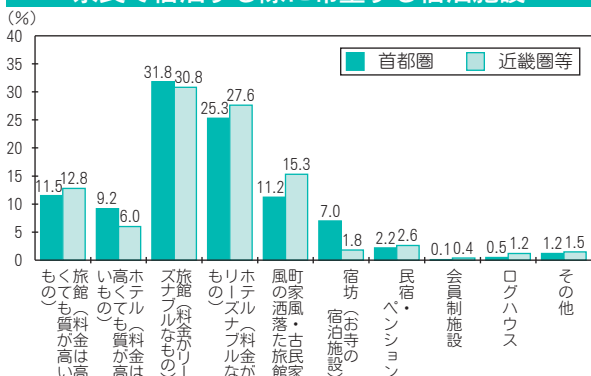
首都圏、近畿圏等のトップ2は同じで、最も多かったのは「旅館（料金がリーズナブルなもの）」（首：31.8%、近：30.8%）、次いで「ホテル（料金がリーズナブルなもの）」（首：25.3%、近27.6%）となり、これら2つで全体の6割弱を占めている。

以下首都圏では、「旅館（料金が高くても質が高いもの）」（11.5%）、「町家風・古民家風の洒落た旅館」（11.2%）と続いている。また、近畿圏等では「町家風・古民家風の洒落た旅館」（15.3%）、「旅館（料金が高くても質が高いもの）」（12.8%）と続いている。

一方、「宿坊（お寺の宿泊施設）」、「民宿・ペンション」、「会員制施設」、「ログハウス」という回答は少数だった。

料金の安さよりも質の高さを求める「旅館（料金が高くても質が高いもの）」（首：11.5%、近：12.8%）や「ホテル（料金が高くても質が高いもの）」（首：9.2%、近：6.0%）は「旅館（料金がリーズナブルなもの）」、「ホテル（料金がリーズ

奈良で宿泊する際に希望する宿泊施設



ナブルなもの）」に比べて少数意見だった。

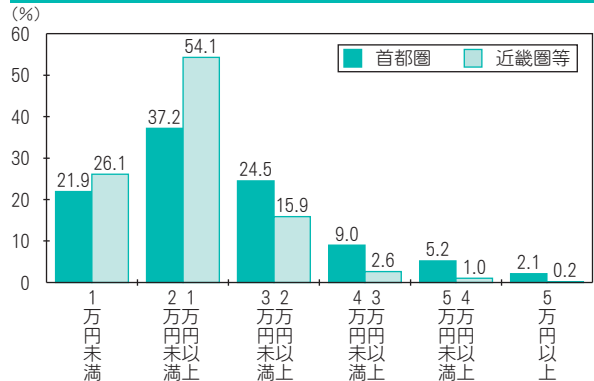
※旅館は部屋が和式の構造、ホテルは部屋が様式の構造として回答。

2. 奈良へ旅行すると仮定した場合の総予算

仮に奈良へ宿泊観光旅行をずとした場合の、「ひとり1泊あたりの総予算金額（交通費、宿泊費、食事代、土産代等）」を尋ねた

最も多かったのが首都圏、近畿圏等とも「1万円以上2万円未満」（首：37.2%、近：54.1%）であり、特に近畿圏等では過半数を占めている。以下、「1万円未満」（首：21.9%、近：26.1%）、「2万円以上3万円未満」（首：24.5%、近：15.9%）と続き、以上の3項目で大多数を占めている。

奈良に宿泊する場合の総予算（ひとり1泊あたり）



3. 妥当と思う総予算と奈良に宿泊する場合の総予算の比較

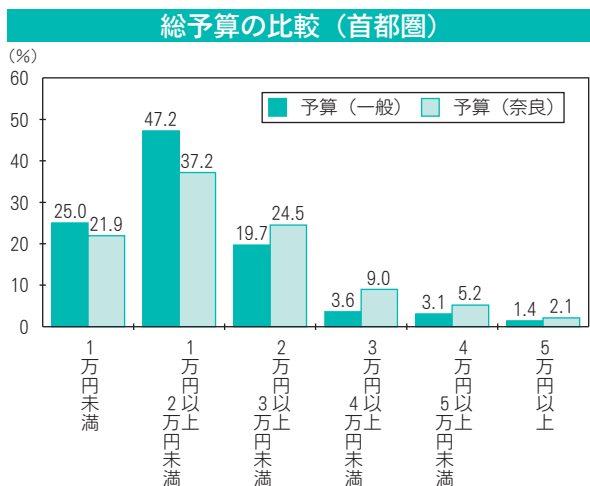
前述した、「宿泊を伴う国内旅行をする場合に妥当と考える総予算」（以下、「予算（一般）」）と「奈良に宿泊すると仮定した場合の総予算」（以下、「予算（奈良）」）を比較した。

(1) 首都圏

首都圏在住者の場合、「予算（奈良）」は、「予算（一般）」に比べやや金額が多いという傾向がみられ、「1万円未満」と「1万円以上2万円未満」が少なく、その分「2万円以上3万円未満」、「3万円以上4万円未満」が多くなっている。これは、首都圏在住者の過去1年の宿泊旅行が比較的近隣が多かったことから考えて、交通費がより多く必

特集

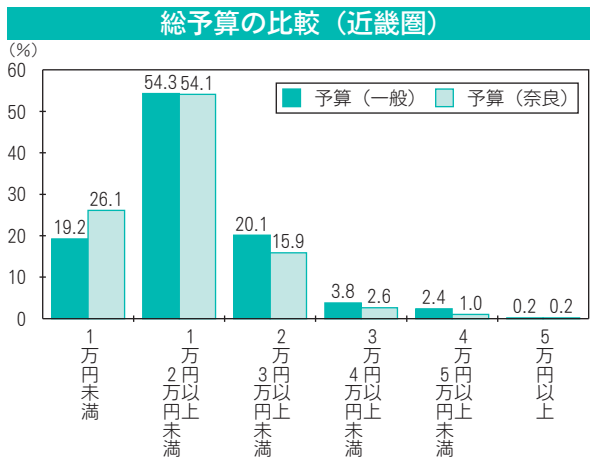
要となると思われる奈良への宿泊旅行をする場合には、資金が多めに必要となると考えていると思われる。



（2）近畿圏

近畿圏等在住者の場合、「予算（奈良）」は、「予算（一般）」に比べ「1万円未満」が多く、その分「2万円以上3万円未満」と「3万円以上4万円未満」が少なくなり、全体としての金額はややダウンしている（「1万円以上2万円未満はほぼ同じ）。

これは、過去1年間に実際に行った宿泊旅行先に比べ、交通費が比較的少なくてすむ奈良への宿泊旅行では資金が少ないめで足りると考えていることによるものと思われる。



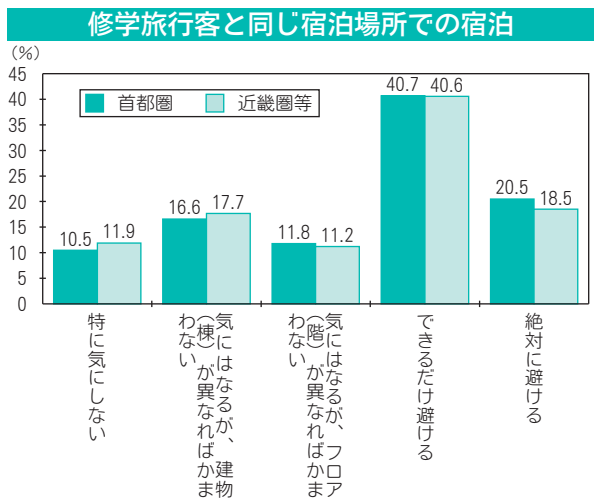
4. 修学旅行者と同じ宿に宿泊することについて

修学旅行者と同じ宿泊場所での宿泊に関して尋ねた。

「特に気にしない」とする回答は首都圏が10.5%、近畿圏等が11.9%となった。「気にはなるが建物（棟）が異なればかまわない」（首：16.6%、近：17.7%）や「気にはなるがフロア（階）が異なればかまわない」（首：11.8%、近：11.2%）とする回答は全体の1割～2割弱を占めた。

一方で、「できるなら避ける」（首：40.7%、近：40.6%）や「絶対に避ける」（首：20.5%、近：18.5%）といった回答が多く、同じ場所での宿泊を嫌う回答は全体の6割にのぼった。

なお、首都圏、近畿圏等の比較では大きな差異はみられなかった。



5. 観光地奈良に不足している項目

観光地としての奈良に不足していると考える項目を複数回答で尋ねた。

首都圏のトップ5は、「温泉」（35.7%）、「交通インフラの整備」（23.0%）「食材・名物料理（その土地ならではの食べ物）」（22.6%）、「観光情報の発信、イベントなどのPR」（16.4%）、「魅力的な土産品」（16.0%）の順となった。

一方で、比較的少数であったのは、少ない順に

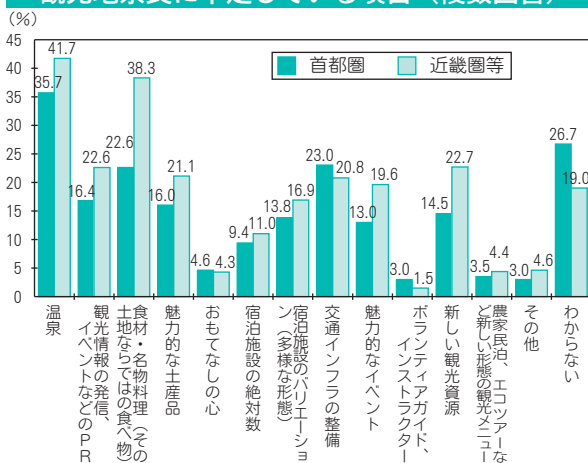
「ボランティアガイド、インストラクター」(3.0%)、「農家民泊、エコツアーなど新しい形態の観光メニュー」(5.7%)、「おもてなしの心」(4.6%)となった。

近畿圏等のトップ5は、「温泉」(41.7%)、「食材・名物料理(その土地ならではの食べ物)」(38.3%)、「新しい観光資源」(22.7%)、「観光情報の発信、イベントなどのPR」(22.6%)、「魅力的な土産物」(21.1%)、「交通インフラの整備」(20.8%)の順となった。

一方で、比較的少数であったのは、少ない順に「ボランティアガイド、インストラクター」(1.5%)、「おもてなしの心」(4.3%)、「農家民泊、エコツアーなど新しい形態の観光メニュー」(4.4%)となった。

また、回答者には奈良に訪問した経験がない(少ない)者が含まれていると考えられること、奈良からの距離が遠いこと等による情報が不足していることなどから、「わからない」とした回答が多くみられた(首:26.7%、近:19.0%)。

観光地奈良に不足している項目(複数回答)



6. 観光地奈良で充実させるべき項目

観光地としての奈良で充実させるべきと考える項目を複数回答で尋ねた。

首都圏のトップ5は、「食材・名物料理(その

土地ならではの食べ物)」(30.2%)、「交通インフラの整備」(24.9%)、「温泉」(24.7%)、「観光情報の発信、イベントなどのPR」(23.2%)、「魅力的な土産物」(17.3%)の順となった。

一方で、比較的少数であったのは、少ない順に「ボランティアガイド、インストラクター」(4.5%)、「農家民泊、エコツアーなど新しい形態の観光メニュー」(5.7%)、「宿泊施設の絶対数」(10.6%)となった。

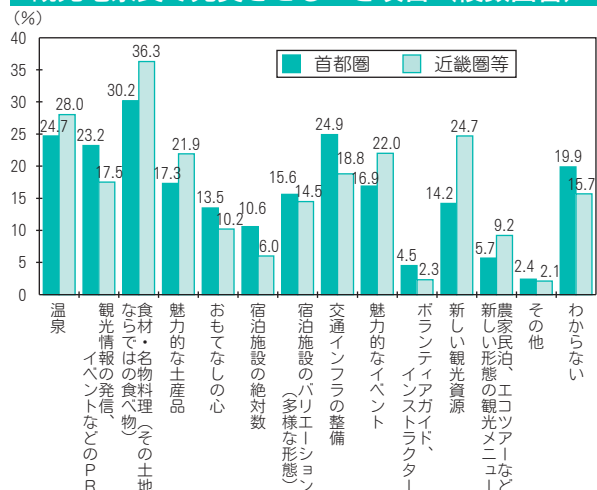
近畿圏等のトップ5は、「食材・名物料理(その土地ならではの食べ物)」(36.3%)、「温泉」(28.0%)、「新しい観光資源」(24.7%)、「魅力的なイベント」(22.0%)、「魅力的な土産物」(21.9%)の順となった。

一方で、比較的少数であったのは、少ない順に「ボランティアガイド、インストラクター」(2.3%)、「宿泊施設の絶対数」(6.0%)、「おもてなしの心」(10.2%)となった。

また、不足する項目と同様に「わからない」とした回答が首都圏で19.9%、近畿圏等で15.7%

※上記、「不足している項目」と「充実させるべき項目」の詳細な分析はPart2で行う。

観光地奈良で充実させるべき項目(複数回答)



7. 奈良県の月別観光客数割合

奈良県観光振興課が公表している、「奈良県観光客動態調査報告書」によると、奈良県月別の観光客数および月別割合（平成19年）は以下の通りである。

これによると、観光客数の最も多い月は1月の5,011.9千人であるが、1月の観光客には初詣客が多く含まれている。1月を除外すると最も多いのが4月の3,982.1千人、次いで11月の3,488.5千人となる。

このように、奈良県の月別観光客数の動きをみると、ゴールデンウィークを中心の春と、10月、11月中心の秋に比較的観光客が多く、夏、冬に比較的少ないという特徴がある。

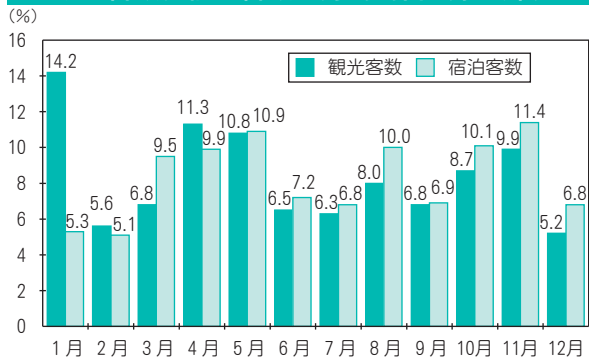
また、観光庁が発表している宿泊旅行統計調査から奈良県の月別観光客数（宿泊者）の割合（平成20年）を見ると、最も多い月は11月で、以下、5月、10月、8月、3月の順となっている。

奈良県月別観光客数（単位、上段：千人、下段：％）

1月	2月	3月	4月	5月	6月
5,011.9	1,974.0	2,413.5	3,982.1	3,800.3	2,284.2
14.2	5.6	6.8	11.3	10.8	6.5
7月	8月	9月	10月	11月	12月
2,211.0	2,827.0	2,383.8	3,079.4	3,488.5	1,845.9
6.3	8.0	6.8	8.7	9.9	5.2

資料：奈良県観光客動向調査報告書（奈良県観光振興課）

観光客数、宿泊客数の月別割合（奈良県）



資料：奈良県観光客動向調査報告書（平成19年、奈良県）、宿泊旅行統計調査（平成20年、観光庁）

※奈良県観光客動向調査における観光客数は日帰り観光客数と宿泊観光客の合計である。

※宿泊旅行統計調査での宿泊施設には従業者数10人未満の宿泊施設は含まれていない。また、宿泊目的は観光に限られない。

4 Part1 のまとめ

アンケート調査結果から、国内宿泊旅行を行う場合、宿泊施設を決定する際には、「安価な料金」、「温泉」、「料理の内容」、「交通アクセス」の4項目が特に重視される項目となった。また、過去1年間に6割以上の方が国内宿泊旅行に行っている。

宿泊の行程は1泊2日が中心で、1泊あたりの総予算額は1万円から2万円の幅が主流であった。ただ、奈良へ宿泊すると仮定した場合には、交通費相当分程度だけ首都圏でやや額が増加、近畿圏等でやや減少という結果となった。同伴者は夫婦、未成年の子供連れ親子が多かった。

過去1年間に訪れた観光地は首都圏では長野県静岡県など近隣県、近畿圏等では兵庫県、三重県が多かった。また、国内宿泊旅行の時期としては、夏休み（8月、7月）とゴールデンウィーク周辺が多かった。

つまり、観光客は夏休みやゴールデンウィークを中心に夫婦または、未成年の子供連れで、近隣地域の温泉等へ1泊2日で旅行をするというパターンが多いということがわかる。

さて、次ページのグラフは、前述の国内宿泊旅行の実施月の割合（本調査）と奈良県の月別の宿泊観光客数割合（宿泊旅行統計調査：観光庁）を比較したものである。

首都圏および近畿圏等の在住者が国内旅行を実施する月と奈良県での宿泊月を比較すると、1月～6月と9月、12月は概ね同じ動きをしている。

一方で特徴的なのは「7月」、「8月」、「10月」、

「11月」である。首都圏および近畿圏等の在住者が国内宿泊旅行を実施した月は「8月」と「7月」が多かったが、「8月」と「7月」に奈良県を訪れる宿泊客の割合は少ない。一方、「10月」、「11月」は逆に奈良県を訪れる宿泊客の割合の方が大きく上回っている。

奈良県は、毎年正倉院展が開催される時期を中心に、10月後半から11月中旬には多くの観光客で賑わう。特に土・日・祝には大きな交通渋滞が起こるほどの人出となり、県内の宿泊施設の稼働率も高まる。そして、部屋が満室となる日も少なくない。だからといって、一朝一夕に部屋数や宿泊施設数は増やせない。したがって、この時期に宿泊観光客をさらに増やしても、泊まる場所がなければ奈良に宿泊することはできない。それは、せっかく奈良を訪れても、近隣の他府県に宿泊することを意味する。

本調査からわかるように、首都圏や近畿圏等在住者の国内宿泊旅行は夏（特に8月）に多い。ま

た、夏休みという性格上、平日の旅行も他の月に比べ多い。「奈良の夏は暑くて観光客が来ない」と思いこむのではなく、多くの観光客が動くこの時期は、奈良県への観光客を増やすチャンスであると考え余地があるのではないだろうか。

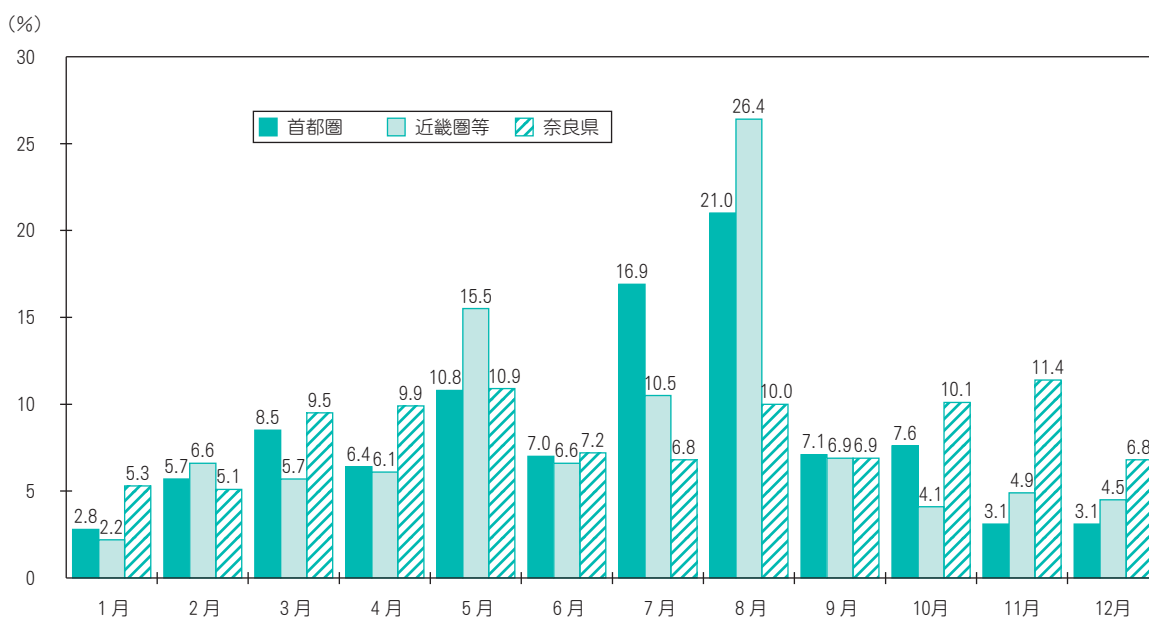
（丸尾 尚史）

（11月号では「首都圏および近畿圏等在住者における平城遷都1300年祭への来訪ニーズ等」を掲載する。）



平城遷都1300年祭の開催を前に、ほぼ復元が終わった「第一次大極殿正殿」

国内宿泊旅行の実施月と奈良県の月別宿泊観光客数の割合



資料、「首都圏」、「近畿圏等」：本アンケート調査、「奈良県」：宿泊旅行統計調査（平成20年、観光庁）